

すが、まだ手つかずのものも残っております。今後編集部も一つ一つ実現に向けて努力してまいります。読者及び執筆者の皆様にもこのアンケート結果を参考にして頂いて、今後とも益々御協力頂けることを願って止みません。

集計の結果が遅くなりましたことをあらためてお詫び申し上げます。

天文月報編集委員会

天文月報に対するアンケート調査の問題点

1989年8月1日付けで天文月報編集委員会が上記のアンケート用紙を天文月報読者に配布した。私は常々評議員会において現在の天文月報の問題点を指摘し、通常会員向けの紙面拡充を提案してきた。今期、新しく天文月報編集理事になられた方々が天文月報の現状に問題があることを認識され、このアンケート調査に表われるような形ででも改善の努力を始められたことは、一面において、旧来の方々よりも良いような印象を与える。しかし、他方において今回のような内容のアンケート調査をしようとする裏に内在する問題点があることを明らかにしておくべきであると思う。

日本天文学会の定款の第4条に「本会は、天文学の進歩及び普及することをもって目的とする(原文のまま)」と書かれている。そして、いわゆる研究者の739名の特別会員と天文学に関心のある一般の人々である1573名の通常会員で構成されている。この両者の活動を定款に基づいて前進させることは車の両輪にも似て学会にとって大切な事である。特別会員向けとしては日本天文学会欧文報告という雑誌があることを考慮すれば、天文月報は“天文学の普及”の対象者である通常会員を中心に構成されるべき雑誌であるといえる。今回のアンケート調査にはこのような視点が中心に置かれていなくて、研究者側の都合を中心としているので、調査結果の扱われ方に大きな危険性を感じる。

私の考えでは、現在の天文月報の問題点は一冊のページ数の少なさと、欧文報告の日本語版かと思える位の記事の難解さである。これは主に記事を書いている特別会員が天文月報に対して考えちがいをしているか、怠慢であるかのどちらかであると思う。同じ著者が他の雑誌ではよりやさしく書いているのを読むと、天文月報を特別会員向けの解説記事として書いている著者が多いのであろう。

今期の理事が天文月報の改善に前向きであることを知り、私が15年ほど前に天文月報編集理事であった頃に提案したが、その頃にはまだまわりの環境が整っていなかったために押しつぶされた事を再び提案したい。それ

は著者と理事会の教育である。両者は常にギリギリの段階になって記事を出すので編集者はあたふたさせられる。編集者がその記事だけに影響を受けるのなら良いが、毎回繰り返すともっとも遅い記事にあわせて仕事をすることになる。

理事会が出す学会記事は毎年ほとんど決ったものである。何故もう数週間早く記事を出せないのか私には不思議である。(この事に関しての反論はあると思うが私にはそれに対して再反論する材料を持っている。しかしここでは紙数の関係で割愛する)一方、著者が提出した記事が難解であれば、著者に書きなおしてもらうように編集者が言うべきである。ギリギリの時間で入稿のために紙面に穴をあけないようにそのまま掲載していることが多いと思う。著者の教育のためにしばらくは大変であると思うが、編集者が穴埋め記事を書く覚悟をしてもらいたいと思う。これらの努力なしには天文月報を通常会員向けの雑誌に改善する方法はないと思う。

今回のアンケート調査が編集室のこれからの編集結果の言い訳に使われるのなら、やらない方がよい。しかし、今期編集理事の意欲の第一歩であるならば**大歓迎である。**
磯部瑠三(国立天文台)

お知らせ

シンポジウム「重力波天文学とその周辺」

科研費総合研究B「重力波天文学」主催による上記シンポジウムを開催いたします。重力波とその検出に関連した実験、又は理論の多くの方の参加を希望します。なお、講演を御希望の方は、12月20日までに下記連絡先までお申し込み下さい。

開催日時 1991年1月17日(木)~19日(土)
開催場所 京都大学基礎物理学研究所(北白川)
連絡先 京都市左京区北白川追分町
京都大学基礎物理学研究所
中村卓史
FAX : 075-753-7010
E mail: TAKASHI @ JPNRIFP
TEL : 075-753-7022

☆ ☆ ☆
☆ ☆
☆ ☆ ☆